

第2回やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議におけるご意見等について

	委員からの意見等	回答及び今後の対応方針案等
1	八代に戻れない理由を把握するアンケートは出来ないのか。	・本市へのUターンをはじめとする移住の意向把握や移住希望者の受け入れ環境の充実のために、本市が発行するふるさと情報誌「やつしろの風」の会員（主に本市出身で市外にお住まいの方）に対して、UIターンに関するアンケート調査を本年9月に実施。アンケート結果は別添のとおり。
2	人口ビジョン素案における将来展望は、若年層が年をとって八代市に戻ってくる想定だと思うが、若年層に対する市内、市外企業の求人がどのようなものか、正社員なのか派遣社員なのか、といった分析がなされているのか疑問。求人に対する分析が出来るのであれば、若者層の転出を抑制する施策や、誘致企業を具体的に検討できるのではないか。また、合併前人口は10万人、合併後も13万人と、ずっと増減しておらず市内で生産と消費が完結していることが想像できるが、こういった分析が出来るのであれば、若者の流出を止められるような施策が検討できるのかと思う。このような帰ってきたい人が何を望んでいるのか、若者がどのような就職を希望しているのかということ进行分析し、具体的に何をするのが大事。そこまで踏み込んだ調査は行ってないか。	・人口ビジョンにおいて、人口の現状分析をした上で、市民と市内高等学校等の学生に対してアンケートを行い、その結果から得られた希望を実現するという仮定を置いて人口の将来展望を求めた。そのため、素案の策定においては、ご意見のような詳細な調査・分析は出来ていない。総合戦略に基づき事業を検討・実施する中で、企業等とも連携しながら市内の雇用・採用形態等も十分に加味した取り組みを行いたい。
3	エフエムやつしろでのCMの現況をみると、若干ではあるが、市外からの広告依頼が増加している。これは、市外業者が八代市をターゲットとしているということだと思う。そういったことも含めて、市内からの人口の流出抑制を図るためにショッピングセンターなどと連携した魅力のあるまちづくりを考えていって欲しいと思う。	・新たな魅力あるまちづくりの一環として、若者が集まり・楽しめる場所づくりなどができないか関係各所と協議を行いたいと考えている。
4	もっと八代市に特化した具体の施策を行っていくべきではないか。特に、企業誘致については、今の社会・経済情勢の中で、どのような企業を誘致できる可能性があるか、ということを検討すべきである。生産性の向上が、これからの企業の目標であり、企業としては出来るだけアウトソーシングしたいと考えている。アウトソーシング専門の企業は、東京である必要はない。そのような視点に絞った企業誘致や、八代の拠点性を活かした企業誘致など、八代らしい具体的な企業誘致の方向性を総合戦略の中で示したほうがいいのか。	・八代港(外港工業団地)、八代インター、八代南インターなどの交通・物流の利便性を活かした企業誘致を検討していきたい。県南フードバレー構想に伴う食品関連産業の集積もその一部であると考え。・総合戦略の基本目標1「魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”」において講ずべき施策の基本的方向(総合戦略P4参照)に記載している『本市の地域性や多様な地域資源を生かし、時代にあった新しい産業の創出や企業誘致を図る』とは、これらの方向性を含んでいる。
5	総合戦略(素案)は総花的な印象を受ける。八代の特色をどう活かすかが重要である。現状、企業誘致を実施したくても簡単に出来ない状況にある。八代には恵まれた立地条件があるため、八代港の開発により物流が向上すれば企業誘致が可能なのではないか。これから八代市内で雇用を増やすためには、時間を要する。八代は非常に住みやすいまちであり、多額の住宅ローンを抱える必要がない。そのため、千丁付近をベッドタウン化し、仕事は熊本、住まいは八代と、学生についても八代から熊本市内の大学に通ってもらおうといったベッドタウン構想が考えられる。雇用の創出よりもベッドタウン化し、熊本までの利便性を高めた方が、八代市に居住する人を残せるのではないのか。また、住むためには、雇用が確立しないと生活の基盤が成り立たない。雇用は八代単独ではなく、エリアを広げたところで考えた方がよいのではないかと感じる。	・総合戦略においては、「県南地域の経済浮揚を牽引する」「熊本の副都心づくり」を大きな方向性として掲げており、そのために恵まれた立地条件などを活かした国際貿易やクルーズ船の誘致、フードバレーやつしろ基本戦略構想の推進などによる産業の活性化や雇用の創出等を図ることとしている。それとともに、近隣市町村へ通勤・通学される方の定住を支援する取り組みも進めていく考えであり、現在、その取り組みの1つとして、新幹線定期券の通勤・通学補助事業を実施中である。

	委員からの意見等	回答及び今後の対応方針案等
6	総合戦略(素案)は、単発のプログラムになっている。居住地を選択する人に「ここで住み続けたい」と思わせるような、一生を送るための具体的なストーリーがあると、まちの魅力が向上すると思う。企業やまちづくりのあり方についても、単体の商業ベースで考えるだけではなく、地域文化ベースでどう見れるのかというところまでもうひとつ踏み込むと、総合戦略も変わるのではないかと思う。また、総合戦略(素案)P11にある基本目標3「誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”」の「学び・教育の充実」の中で、子供たちに郷土に対する思い出や感動を抱かせるような、社会教育活動を具体化することで、子供たちが将来八代市に戻ってこよう、と思ってくれるようなまちづくりができないだろうかと思う。それだけ魅力的なまちになれば、八代に住んだことのない人にも、八代に移り住みたいと思ってもらえるようなまちになるのではないか、と思う。総合戦略が個別戦略化されているため、全体をストーリー的な視点から見ていただけるとわかりやすくなるのではないか、ということをご提案させていただく。	・総合戦略に基づき取組む事業については、人々に「本市で暮りたい」、「本市に住み続けたい」と思わせるようなストーリーを持たせて分かりやすく提示するが効果発現に繋がることから、ご意見を十分参考とさせていただきますその方法を検討していく。
7	これから他の自治体との連携が必要になってくる。総合戦略素案の基本目標4「“やつしろ”の発展を支えるまちづくり」の2-(4)「地域間連携の推進」(総合戦略素案P17参照)で、「定住自立圏の形成など」という記載があり、“など”の部分で今後具体的な事業として出てくるのだろうかという期待がある。	・今後、総合戦略に基づき具体的な事業を検討・実施していく中で、近隣市町村等と具体的に連携する部分がでてきたら、総合戦略に反映させていく。連携事業については、いろいろな分野で検討をしていきたい。
8	「地域資源」という言葉について、「中小企業地域資源活用促進法」という法律に即した支援事業がある。今までの地域資源は県が認定し、産業支援に繋げていくという施策であったが、昨年度法改正があり、市町村が「ふるさと名物応援事業」を行うと宣言したものについては、国や機構も積極的に支援していくという法律に変わった。機構としては、八代市からも「ふるさと名物応援事業」に宣言していただければ、具体策として活動におとすことができる。また、機構の事業支援ノウハウをサポートする環境もある。法律が変わった点を活かしながら、具体策にいられていただければ、と思う。	・「ふるさと名物応援宣言」に向け、検討する。
9	基本目標1「魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”」の具体的な施策に「県南の拠点性向上」の部分について。重点港湾は、熊本県内では八代港しかないため、「県南の拠点性向上」というよりも「アジアのゲートウェイとしての機能強化」と、もっと大風呂敷を広げてよいのではないか。 一方、基本目標2「人をひきつけ、人が集う、活気ある“やつしろ”」の「世界に打ち出す観光業の展開」の部分については、表現が大きすぎると感じるため、「県南の連携による観光業の展開」とし、そのためのクルーズ船寄港の推進であるというように考えてたらどうか。	・総合戦略素案の基本目標1「魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”」の具体的な施策3「県南の拠点性向上」(総合戦略P7参照)については、ご意見を受け、「南九州のゲートウェイとしての拠点性向上」と変更。八代港ポートセールスビジョンとも整合性を図った。 ・総合戦略素案の基本目標2「人をひきつけ、人が集う、活気ある“やつしろ”」の具体的な施策3「世界に打ち出す観光業の展開」(総合戦略P9参照)については、具体的な施策名の修正はしないが、県南地域との連携という視点は今後一層重要になるものと認識しており、文中に「県南地域との連携」を追記した。
10	総合戦略素案P6のKPI「農林水産業の新規就業者数」の目標が40人となっているが、消極的ではないか。近年、新規就農者が増えていると聞いているので、目標設定の考え方をお聞かせいただきたい。 また、農業高校と農家、農協とのインターンシップはあるのか。	・八代市の担い手農家である認定農業者1,200人を維持・確保するためには、就農期間を30年と考えた場合、年間40人の新規就農者が必要になってくる。 ・八代農業高校では農家、農協とのインターンシップを実施されている。

	委員からの意見等	回答及び今後の対応方針案等
11	<p>農業高校については、学校からの就職の推薦を優先的に受け入れているが、卒業生のうち新卒で農業に携わる人は極少数である。卒業し社会を経験した後、跡取りであれば農業に戻ってくるという場合が多い。卒業生の新規就農は少ないと感じている若い人については、農業への就業の気持ちが少なく、農業高校に行く子供たちが少なくなっており、非常に不安である。農業高校の進学率が向上することを願っている。また、農業高校は八代と熊本にあるが、熊本は定員オーバーである。学校についても、地域間格差、魅力の差が生じているのではないかと感じている。</p>	<p>・農業高校の生徒に、青年就農給付金を始めとする支援制度を説明するとともに、希望者には営農支援員による巡回を行い、スムーズに就農できるよう支援していく。</p>
12	<p>八代のような田舎では、正規雇用であれば、東京・大阪で働くよりも給与が低くても十分生活が出来るのではないかと思う。現在、4割以上が非正規雇用であると聞くと、雇う側からしてみれば非正規雇用が便利かもしれない。しかし、雇われる側からしては非正規雇用であることがネックになっていると思うので、給与が安くとも、保障のある正規雇用の方が仕事への定着率も上がるのではないかと思う。</p>	<p>・立地企業の新規雇用に対する補助金制度について、正規雇用を優遇している。今後も正規雇用に対する支援を進めていきたい。</p>